すみだ
郷土文化
資料館
SUMIDA
HERITAGE
MUSEUM

尾張屋彦五郎抱遊女花見図（部分、文久3年〈1863〉）

特集展示

石碑でたどる 隅田堤植桜の歴史

令和７年 ３月１日（土）～５月６日（火）

四季の詠木母寺植半（明治28年〈1895〉）

会　場：2階展示室Ａ
休館日：月曜日･第4火曜日(土･日･祝日は開館。祝日に当たる時は翌日休館)
時　間：午前9時～午後5時　＊入館は午後4時半まで
入館料：個人100円／団体（20名以上）1人80円
※中学生以下と身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及び介助の方は無料

すみだ郷土文化資料館
墨田区向島2−3−5
TEL 03(5619)7034 ／ FAX 03(3625)3431

すみだ
郷土文化資料館
ホームページ

特集展示

石碑でたどる隅田堤植桜の歴史

隅田堤の桜は、享保10年（1725）に木母寺境内と隣の御前栽場に江戸城御庭の桜樹が移されたことが始まりです。その後、18世紀末から徐々に南に延びていき、明治初期には旧水戸藩邸側の現枕橋に到達します。木母寺からの距離は、およそ2キロメートルにもおよび、当時の新聞にも茶屋が数十軒立ち並んでいたと記されています。

茶人の伊丹宗朝は俳諧師としても知られ、同時代の武家歌壇とも交流がありました。宗朝の詠んだ歌碑が木母寺境内に建てられ（現存）、江戸町奉行所与力の笠原孟懿が遺した絵巻にも記されています。同寺境内には、亀田鵬斎の漢詩碑もあり、18世紀の花見が北端の木母寺を中心としていたことがうかがえます。また、明治24年（1891）建立の「天下の糸平」碑も著名です。

隅田村名主坂田氏が天保期（1830～44）に白鬚社や長命寺附近に植桜したことが有名ですが、その事実を書いた明治20年（1887）建碑の「墨堤植桜の碑」や、その6年前の墨堤常夜灯の建造は、江戸幕府からの桜樹維持費が維新後なくなり、樹勢が衰えてきたことへの危機感と対応の結果、建てられたものでした。

とくに墨堤常夜灯は、そのシルエットが花見客に好まれたようで、数多くの浮世絵や石版画に描かれました。長く残る石碑が人びとの記憶に刻まれ、また新たな名所の一コマになったと言えるでしょう。

東京名所見立五行（部分、明治21年〈1888〉）

今回の企画展では、これらの5つの石碑を中心に据えながら、館蔵の浮世絵と一緒に川、舟、堤と桜が織りなす春の隅田堤の情景を紹介していきます。

「隅田堤桜花の碑」拓本（文政12年〈1829〉）

すみだ郷土文化資料館

〒131-0033 東京都墨田区向島 2-3-5
TEL 03(5619)7034 ／ FAX 03(3625)3431

■都営浅草線「本所吾妻橋」駅下車、徒歩８分
■東武線「とうきょうスカイツリー」駅下車、徒歩７分
■都営バス「言問橋」停留所下車、徒歩２分
（草39：金町駅～浅草寿町
業10：新橋～とうきょうスカイツリー駅
上26：亀戸駅～上野公園）
■都営バス「本所吾妻橋」停留所下車、徒歩８分
（都08：錦糸町駅～日暮里駅
門33：豊海水産埠頭～亀戸駅
上23：平井駅～上野松坂屋）